史林

二〇一〇年一月二五日印刷
二〇一〇年一月三一日発行

第93巻　第1号　史学・地理学・考古学

特集　戦　争

史学研究会
京都大学大学院文学研究科内

特集　戦　　争

特集「戦争」によせて……中　砂　明　徳（1）

論　　説

城郭と戦争の考古学……千　田　嘉　博（6）

九州停戦命令をめぐる政治過程……尾　下　成　敏（36）
——豊臣「惣無事令」の再検討——

ベローナが解き放たれる時……鈴　木　直　志（71）
——啓蒙期ヨーロッパの戦争論と平和論——

戦争・国家・スポーツ……高　嶋　　航（98）
——岡部平太の「転向」を通して——

技術と戦争……喜　多　千　草（131）
——第二次世界大戦から冷戦期までの
アメリカにおけるコンピュータ技術を例に——

「戦争体験」という教養……福　間　良　明（163）
——「わだつみ」の戦後史——

研究動向

日本考古学における「戦争」研究の動向……阪　口　英　毅（197）

書　　評

鈴木拓也著『蝦夷と東北戦争』
（戦争の日本史3）……渕　原　智　幸（209）

David A. Graff, *Medieval Chinese Warfare, 300-900*…丸　橋　充　拓（216）

Emma Bridges, Edith Hall and P.J. Rhodes (eds.),
Cultural Responses to the Persian Wars: Antiquity to the Third Millennium……阿　部　拓　児（224）

2009年度史学研究会大会講演要旨

2009年度史学研究会大会・総会の記録

し、北京に到来した琉球使節がこれを知って、自国に導入した可能性が考えられる（Kobayashi 2007）。

本発表の末尾では、さらに麻疹についても検討した。そのアウトブレーク年表を朝鮮、日本本土、琉球列島、蝦夷地について作成すると、いずれでも流行の間隔が長く、東アジアでは一九世紀まで、麻疹がエンデミックになっていたのは中国本土だけだったことを示している。また上記地域では、アウトブレークがほぼ同時期に発生した場合がいくつかあり、中国本土から朝鮮半島を経由して、日本本土、さらに琉球列島や蝦夷地に伝播したことを示している。琉球王国では外来の麻疹患者の隔離もおこなわれたが、その伝播力の強さもあってか、天然痘の場合のような本格的制度化までには至らなかったようである。

以上のような中国本土を中心とする疾病空間は、チベットなど他の周辺地域とのあいだでもみられたと考えられる。これらについても類似の角度から検討する必要のあることをあわせて指摘した。

二〇〇九年度

史学研究会大会・総会の記録

史学研究会の二〇〇九年度大会・総会は、一一月二日（月）一三時から一七時まで、京都大学文学部新館第三講義室において開催された。

総会では、藤井譲治理事長による挨拶の後、江川温氏を司会に選出して、庶務・編集・会計・広報に関する報告・審議がなされた。

庶務（中砂明徳常務理事）からは、役員の交代、今年度の例会実施について報告があり、来年度例会は四月十七日（土曜日）に「民族」をテーマとして開催することが案内された。また、六月の理事会・評議員会で承認された会則の改正案を提示し、総会の承認を得た。

編集（吉本道雅常務理事）からは、『史林』の刊行について報告があった。

会計（泉拓良常務理事）からは、二〇〇九年度予算の紹介、科研費申請の準備についての報告があった。

広報（谷川穣常務理事）からは、ホームページの一層の充実を図るべく、準備を進めている旨報告があった。

これに引きつづき、公開講演が行なわれた。講演は次の二本であった。

紀平　英作氏
「歴史とは何か」

小林　茂氏
「近世東アジアの疾病空間」

講演者紹介と司会は、それぞれ永井和理事と田中和子理事がつとめた。講演内容は本号に掲載されているので参照されたい。近年まれにみる盛況で、一五三名の参加者を得ることができた。

公開講演ののち、小山哲理事が閉会の辞を述べた。大会終了後、オープンな立食形式の懇親会が開かれた。

（文責　中砂明徳）

史学研究会会則

（二〇〇九年一一月二日改正）

第一条　本会は史学研究会と称する。

第二条　本会の事務所を京都大学大学院文学研究科内に置く。

第三条　本会は広く歴史に関心を持つ者が集まり、史学・地理学・考古学に関す

る研究を行うことを目的とする。

第四条　本会の事業は次の通りである。

1　総会・大会・例会等の会合

2　会誌『史林』等の発行

第五条　本会に次の役員を置く。

理事長一名、理事一五名以上三五名以内（内常務理事四名）、監事二名、評議員四〇名以上六〇名以内、委員若干名

第六条　役員は理事会及び評議員会によって選出され、総会の承認を受けるものとする。理事長は本会を代表し、会務を統括し、会員総会、理事会及び評議員会を招集する。理事は理事会を構成し、会務を処理する。とくに常務理事は、庶務・編集・会計・広報の各事務を担当する。監事は会計経理を監査する。

第七条　委員は理事長より嘱託され、編集・庶務の実務を分掌する。

第八条　役員の任期は、委員（任期一年）を除き、二年とする。但し、再任をさまたげない。

第九条　本会は第三条に掲げた目的に賛同する者をもって会員とする。会員は次の二種類とする。

1．正会員　2．学生会員

第十条　会員は会誌『史林』の配布を受け、かつこれに投稿し、また総会に参加することができる。

第十一条　会員は、退会届を事務局に提出し、任意に退会することができる。また、会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、退会したものとみなす。

（1）本人が死亡し、または会員である団体が消滅した時

（2）会費を三年間納入しない時

第十二条　会員は、所定の会費一年分を前納するものとする。会費の納入を二年分怠った時、雑誌の送付を停止される。さらに一年間会費の納入を行わない場合、会員の資格を喪失する。

第十三条　会員が既に納入した会費は返還しない。ただし一年分を超えて前納している場合には、一年分を超える部分を返還する。

第十四条　適宜例会を開く。会場等はその度にこれを定める。

第十五条　毎年秋季において総会を開き、会務の報告を行ない、承認を受ける。

第十六条　本会の経費は会費、事業収入及び寄付金を以て支弁する。会費は誌代を以てこれにあてる。

附　則　本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。

但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基づく会費金額の変更は理事会がこれを行う。

※改定箇所を傍線で示した。

『史林』投稿規定

◇資格　本会会員であること。

◇投稿受付原稿の種類、長さ

論説　1段組54字×19行の体裁で、三二〇〇字以内

研究ノート　2段組29字×20行の体裁で、二〇〇〇字以内

研究動向　2段組29字×20行の体裁で、三二〇〇字以内

史料紹介　2段組29字×20行の体裁で、三二〇〇字以内

書評・論文評　2段組、八〇〇〇字以内

紹介　3段組、一二〇〇字程度

◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。

◇注は各章末に入れること。
◇「欧文タイトル」を添付すること。
◇論説には「要約」（四〇〇字以内）を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。
◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」（六〇〇～八〇〇語程度）を提出すること。なお、英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。
◇査読用に複本（原本からコピーしたもの）1部を添付すること。
◇電子データがある場合には、下記「補足」の〈電子データ添付要領〉に従って添付すること。
◇図版が必要な場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意：特殊な図表を掲載したり、特殊活字を用いる場合には、その印刷経費の一部を負担していただくことがあります。

送り先：史林編集委員会
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
京都大学大学院文学研究科内　史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ添付要領〉
・電子データは、フロッピーディスク・CD―R・CD―RWのいずれかのメディアに保存して提出すること。
・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式（OSおよび使用ソフト）を明示すること。
・図版に電子データを使用する場合には、ソフト（IllustratorやPhotoshopなど）やバージョンについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉
・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。
・仕上寸法は、最大で170㎜×110㎜（キャプション込み）とすること。
・図および写真は、仕上寸法の2倍（面積4倍）程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。
・図は、トレーシングペーパーや製図用ケント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。
・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。
・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担となることがある。
・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意：図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します（経費は投稿者負担となります）。

受贈誌

（二〇〇九年一〇月二六日～二〇〇九年一一月九日）

Historia Mexicana (El Colegio De Mexico) 二三四
経済学研究（九州大学経済学会）七六―一～三
人文地理（人文地理学会）六一―四
東北文化研究室紀要（東北大学文学研究科東北文化研究室）五〇
東北文化資料叢書（東北大学大学院文学研究科東北文化研究室）四
中央研究院歴史語言研究所集刊（中央研究院歴史語言研究所）八〇―三
史學（三田史学会）七八―三
社会経済史学（社会経済史学会）七五―一
神道宗教（神道宗教学会）二一三
立命館法學（立命館大学法学会）三二五
哲學研究（京都哲學會）五八八

会　告

本号は定価二〇〇〇円ですが、会員価格は一二〇〇円に致します。

編集後記

ここ五年ほど、史学の総合雑誌であります弊誌では、専門領域を越えた共通の対話や相互理解を深めながら歴史研究の可能性を広げていくための試みとして、毎巻一号を特集号として発行しております。八八巻、八九巻の「歴史学の現在」を皮切りに、九〇巻からは、特定の共通テーマを設定した前年開催の例会シンポジウムでの報告にもとづく論説を中心に構成してきました。

今号では、過去三年間の「国境」「モニュメント」「環境」に引き続き、「戦争」を共通テーマといたしました。二〇〇九年四月一八日に開催しました史学研究会例会での報告をもとにした千田、尾下、鈴木、高嶋、福間各氏の論説にくわえて、現代史の喜多氏の論説と考古学の阪口氏の研究動向、その他三本の書評をご寄稿いただきました。論説・研究動向・書評をつうじて、考古学による戦争研究から、現代のコンピュータ技術と戦争のかかわりや戦争体験をめぐる言説の受容に至るまで、非常に多彩でユニークな力作がそろいました。それぞれの論考は専門性の高いものが多くなっていますが、いずれも第一線の研究者による最新の研究成果であるか、あるいは近年の動向を示しております。歴史学各分野での「戦争」研究の最前線とこれからの大いなる可能性を読み取っていただければと思います。

次回例会は、今年四月一七日（土）に「民族」を共通テーマとして開催予定です。近日中にはご案内さし上げますので、ご期待ください。

（古松崇志）

◈史学研究会ホームページ・アドレス

http://www.soc.nii.ac.jp/shr/index.html

本誌には独立行政法人日本学術振興会平成二一年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が交付されております。

二〇一〇年一月二五日印刷
二〇一〇年一月三〇日発行　**定価二、〇〇〇円**

史林　第九三巻第一号（通巻第四七九号）

京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内
電話　FAX　（〇七五）七五三―二七八七

発行人　史学研究会
振替京都　〇一〇七〇―二―五二五番
理事長　藤井譲治

印刷所　京都市南区上鳥羽藁田二九　中村印刷株式会社

Special Issue
WAR

NAKASUNA Akinori, Foreword ..... (1)

Articles:

SENDA Yoshihiro, Castles and Warfare in Archaeology ..... (6)

OSHITA Shigetoshi, The Political Process behind the Order for the Kyushu Ceasefire: A Reexamination of the *Toyotomi Soubujirei,* Hideyoshi's Order for A General Peace ..... (36)

SUZUKI Tadashi, Bellizismus und Ewiger Friede als Träger der Entfesslung Bellonas ..... (71)

TAKASHIMA Ko, War, State and Sports: Okabe Heita's "Conversion" to Nationalism ..... (98)

KITA Chigusa, Technology and War: Digital Computer Technology from World War II to the Cold War Era in the United States ..... (131)

FUKUMA Yoshiaki, The Transformation of Arguments on War Experience and "Liberal Artsism": Postwar History of the Reception of *Wadatsumi no koe,* Accounts of Fallen Japanese College Students ..... (163)

Academic trends:

SAKAGUCHI Hideki, The Trend of the Study of "War" in Japanese Archaeology ..... (197)

Book Reviews:

SUZUKI Takuya, *The Ezo and War in the Northeast* (FUCHIHARA Tomoyuki) ..... (209)

David A. Graff, *Medieval Chinese Warfare, 300–900* (MARUHASHI Mitsuhiro) ..... (216)

Emma Bridges, Edith Hall and P.J. Rhodes (eds.), *Cultural Responses to the Persian Wars: Antiquity to the Third Millennium* (ABE Takuji) ..... (224)

Miscellaneous:

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCIII No. 1 January 2010

Special Issue

WAR

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 2,000円(税込)

ISSN 0386-9369